

公設単独ショートステイの今後の方向性について（提言）

近年、ショートステイは、特別養護老人ホーム整備に伴う併設ショートステイや宿泊機能を有する小規模多機能施設等の増加により、利用しやすくなっており、稼働率が低下するとともに、報酬改定の影響で報酬単価も下がり、運営環境は厳しくなっている。

公設単独ショートステイ 3 施設（※）は、上記に加え、30～40床と規模が大きい分、利用者の入れ替わりが多く、常勤のベテラン職員の配置等、サービス提供体制を手厚くする傾向にあること等から経費がかさみ、この間、指定管理者においては巨額の赤字を計上し続けている。

※単独ショートステイ：特養等の併設入所施設と一体的に運営するのではなく、ショートステイ専用床のみで運営する施設で、本市の公設では、「菊浜」、「東高瀬川」及び「春日丘」の3施設

現状のままでは、次の指定管理者公募への応募がない、または応募があったとしても安定した継続運営が見込めないおそれがある。

このような状況を踏まえると、公設単独ショートステイ 3 施設の今後の方向性としては、よりニーズが高く、安定した運営が見込まれ、かつ人員配置もほぼ同じで入所申込者の減少にも繋がる特別養護老人ホームに転換を図ることが望ましい。

なお、転換の検討に際しては、地域の状況に十分に配慮しつつ、これまで実施していたショートステイ床の一部維持や、緊急ショートステイ機能への対応について検討するなど、利用者に不利益が生じないように配慮すべき。

令和5年10月
京都市高齢者施策推進協議会

(参考)

1 検討の経過

- 令和4年11月～12月に実施した、第9期京都市民長寿すこやかプラン策定のための「すこやかアンケート及び介護サービス事業者に関するアンケート調査」結果の中で、ショートステイの3年後の利用状況の質問に対し、4割以上の事業所が「今後は利用が減る」と回答<2(1)参照>している。
- ショートステイの運営状況については、近年、特養整備に伴う併設ショートステイや小規模多機能施設等の増加<2(2)参照>により、稼働率は以前の90%程度から、80%程度に低下<2(3)参照>し、また、報酬改定により、ショートステイの報酬単価が以前より低下<2(4)参照>しており、厳しい経営環境にある。
- 令和5年3月29日に開催した「京都市高齢者施策推進協議会」においても、委員から、ショートステイの運営環境が厳しいとの声があること、とりわけ定員の多い公設単独ショートステイの運営法人から、赤字が続き大変厳しいとの声があること等から、公設単独ショートステイについて、地域ニーズに合っているのか、今日的な状況を勘案して今後の在り方を考える時期に来ているのではないかと、この意見があった。
- 本市では、令和4年3月に「公設介護サービス提供施設の今後の在り方に関する方針」を策定し、地域ニーズに見合った介護サービスが提供されている前提で、指定管理者制度による運営の継続を基本に、指定管理者が地域ニーズに応じた柔軟なサービス提供を希望する場合はそれを踏まえて、各施設のあり方を具体的に検討していくこととしている。
こうした状況を踏まえ、本協議会で公設単独ショートステイの今後の方向性について検討を行うこととし、本協議会及び本協議会に設置した「介護保険事業計画ワーキンググループ」における協議を経て、提言を取りまとめたもの。

2 ショートステイ全体を取り巻く状況

(1)「第9期京都市民長寿すこやかプラン」策定のための介護サービス事業者に関するアンケート調査結果(令和4年度第3回京都市高齢者施策推進協議会)

内容		順位	割合	種別・回答
特別養護老人ホーム併設のショートステイの利用状況	3年前と現在の比較	1位	36.5%	変わらない
		2位	25.0%	利用が減っている
		3位	19.2%	専用床を持っていない
	現在と3年後の比較	1位	54.1%	変わらない
		2位	40.5%	利用が減る
		3位	5.4%	利用が増える

(2) ショートステイ及び小規模多機能型居宅介護等の施設数の推移

	施設数		定員数	
	H24	R4	H24	R4
ショート全体	72 施設	104 施設 (+32 施設)	811 人分	979 人分 (+168 人分)
民設	62 施設	94 施設 (+32 施設)	633 人分	821 人分 (+188 人分)
公設	10 施設	10 施設	178 人分	158 人分 (-20 人分)
単独	3 施設	3 施設	100 人分	100 人分
併設	7 施設	7 施設	78 人分	58 人分 (-20 人分)

	施設数		宿泊定員数	
	H24	R4	H24	R4
小多機等 (H18 新設)	39 施設	102 施設 (+63 施設)	261 人分	688 人分 (+427 人分)

(3) ショートステイ稼働率の推移

	H24～26 平均	H29～R3 平均
ショート全体	約 90%	約 80% (△10%)

(4) ショートステイに係る介護報酬の推移

	H24 改定→R3 改定 (現行)
ショート全体	△3.7%

3 公設単独ショートステイ 3 施設の状況

(1) 公設単独ショートステイの概要

	指定管理者	開所年月	定員	施設所在地	併設施設種別
菊 浜	京都市社会福祉協議会	H15.6	40 名	下. 梅湊町	長寿すこやかセンター
東高瀬川	京都老人福祉協会	H11.5	30 名	伏. 北端町	デイサービス 地域包括支援センター
春日丘		H10.1	30 名	伏. 醍醐辰巳町	デイサービス 老人介護支援センター

(2) 公設単独ショートステイの状況 (収支・稼働率等) (収支の単位: 千円)

		H29	H30	R1	R2	R3	R4
菊 浜	収支	△22,470	△25,821	△39,052	△54,839	△61,090	△51,890
	稼働率	88.2%	89.8%	89.7%	71.8%	63.0%	63.5%
	人件費率	72.4%	73.9%	78.6%	87.0%	94.5%	86.0%
東高瀬川	収支	△21,381	△23,247	△34,742	△18,787	△8,772	△20,487
	稼働率	87.4%	82.2%	71.4%	73.2%	68.5%	62.4%
	人件費率	95.2%	87.0%	101.1%	109.1%	77.8%	88.8%
春日丘	収支	△13,090	△24,563	△32,029	△37,038	△31,363	△33,497
	稼働率	92.9%	79.8%	78.5%	67.0%	60.1%	52.0%
	人件費率	85.7%	87.2%	93.4%	108.4%	99.7%	104.6%

※稼働率平均(H24～26): 菊浜(85.7%)、東高瀬川(78.3%)、春日丘(88.8%)、

※人件費率は、人件費÷介護報酬(利用者負担分を含む)で計算